

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015年8月3日		
所属学部	文		
所属学科・専攻	国際言語文化	学年	4

1. 留学先について

留学先大学名	デュッセルドルフ大学		
留学先所属学部等	メディア・文化学科		
留学期間	出発日 2014/9/22	入学日 2014/10/1	修了日 2015/9/30 帰国日 2015/7/30
住居	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート等 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()		
	通学時間	15分	<input type="checkbox"/> 大学の紹介・あっせん
	通学方法	電車	
	部屋のタイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> ()人部屋 <input type="checkbox"/> 共同スペース有 () <input type="checkbox"/> 無	
食事	自炊 80% 学食 % 外食 20% その他 % () *%で記入してください		
保険	海外旅行保険(名称)		
	大学指定の保険(名称)	AOK	<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電)		
	成田	⇄	デュッセルドルフ(飛行機) ⇄

2. 留学にかかった費用について

総費用	175万	円	* おおよそでかまいません。			
出処						
自費	<input type="checkbox"/> 貯金	円	<input type="checkbox"/> アルバイト	円 <input type="checkbox"/> その他	円	
援助	<input checked="" type="checkbox"/> 両親	175万	円	<input type="checkbox"/> 家族・親戚	円 <input type="checkbox"/> その他	円
奨学金	<input type="checkbox"/> JASSO	円	<input type="checkbox"/> その他名称 ()		円	
その他	<input type="checkbox"/> 千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/> その他 ()		円	

2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input checked="" type="checkbox"/> 現金	6万	円	<input checked="" type="checkbox"/> クレジットカード	円	<input type="checkbox"/> その他 ()
留学中	<input type="checkbox"/> 海外送金			<input checked="" type="checkbox"/> キャッシング		<input type="checkbox"/> その他 ()

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	€ 512
住居にかかった費用	€ 3,100
その他	

2-3. 内訳 * 外貨と日本円に換算した金額を両方記入してください

渡航費(往復)	外貨		円	180,000
海外旅行保険	外貨	€810(+3100円)	円	113,238.00
OSSMA	外貨		円	19,440
査証・在留許可証	外貨	€ 70	円	9,518.11
住居	外貨	€ 3,100	円	421,156
食費	外貨	€ 3,000	円	416,148.21
通学に要する交通費	外貨	€ 512	円	71,022.63
教科書、教材費	外貨	€ 45	円	6,118.79
その他大学に支払った経費	外貨		円	
光熱費	外貨		円	
その他 (旅行)	外貨	€ 4,685.83	円	650,000
その他 ()	外貨		円	
その他 ()	外貨		円	
その他 ()	外貨		円	
その他 ()	外貨		円	

3. 学業面

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ^{ex.} 正規、聴講	単位数	単位認定の有無	
1 ドイツ語(B1.1+B1.2)	正規	10	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
2 筆記B1	正規	2	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
3 音声学 中級	正規	2	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
4 コンピュータ B1.2	正規	2	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
5 ドイツ文化	正規	2	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
6 ドイツ語(B1.2)	正規	4	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
7 会話トレーニング B1	正規	2	<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
8			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
9			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
10			<input type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

千葉大学と履修の仕方は同じ。期間はわからないが削除期間などがもうけられていた。

3-2. 授業内容、方法に関して

前半は日本人だけの語学コース。後半は、いろいろな国の人たちと語学コースを受けた。音声学や基礎、会話、手紙の書き方を習う授業を取った。

3-3. 語学力について

授業だけでも、すこしは語学力は伸びたと思う。しかし、一番効果があったのはタンデムパートナーの制度であったと思う。タンデムパートナーとは日本語を学んでいるドイツ人とパートナーになってお互いに言語を教えあう制度である。

3-4. 図書館など学内施設について

基本的に図書館や学食はどんな人でも館内に入ることができる。図書館の中に入るときには、荷物やコートをロッカーに預けなければならない。

3-5. その他

4. 生活面 * 気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。書ききれない場合には別紙等に続けてください。

4-1. 住居について

私は学生寮にいた。一人用の部屋で、キッチン、シャワー、トイレがついていた。洗濯機は隣の建物の地下にあるものを使っていた。乾燥機もあって、一回に€2.6かかった。寮の場所はスーパーまで徒歩15分、中央駅まで徒歩30分、大学まで電車で10分くらい。

4-2. 食生活について

なるべく自炊するようにした。小麦を取り続けると体の調子がだんだん悪くなってくるので、お米を食べるようにした。ミルヒライスというお米が日本米に一番近く、安いのでそれをフライパンで炊いた。どうしても日本米が食べたくなくなったときには、日本食レストランがたくさんあるのでそこに食べに行ったりした。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

自分の部屋にWi-Fiを通した。学校でもWi-Fiが使えた。携帯電話はプリペイドの携帯を買って毎回チャージしていた。

4-4. 服装について

冬服をたくさん持っていった。夏服は現地で調達した。

4-5. 健康管理について

体力を落とさないように近くの公園をよく走った。少しつらいなと思っても、寝たらすぐ治った。

4-6. 保険、OSSMAの利用 * 利用実績等をご記入ください

保険は一切使っていない。

4-7. 課外活動について

何も参加していない。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

月に一度日本人と、日本語を勉強しているドイツ人とで定期会みたいなのがあった。一緒に飲みながらいろいろ話をしていて、ドイツでの生活の仕方など聞くことができた。

4-9. 日本から持参してよかったもの

私はよくお米を炊いていたので、ふりかけやお茶漬の素が持参してよかったと思う。ヒートテックも冬は頻繁に使用していた。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

日本から持って行ったものがあまりなかったので、不要なものはなかった。

4-11. 現地での対人関係について(習慣の違い、マナーなど)

あまり人と関わる事がなかったので、習慣の違いなどを感じることはなかった。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

オランダ:3/31-4/2 ドレスデン:3/10-12 ミュンヘン:3/2-6 農業体験:3/22-27 イギリス7/22-27 費用は全部で大体65万円

その他

5. 報告

5-2. 留学先大学について

デュッセルドルフ大学には他の大学の日本学生も多く、日本学科もあるので日本語を話す機会がたくさんありました。また、日本人に向けた語学コースを作っているのも、ドイツ語を集中して勉強したい人にはあまりむいていないと思います。でも、最初のころは慣れない環境で、精神的につらくなることもあるので、慣れるまではデュッセルドルフ大学に居ることはいいと思います。

5-3. 留学中の様子

留学して最初のころは、相手が何を言っているか全くわからないのですごく心細かったです。同じ大学で同じ学科の友達と同じ学校だったので、最初のころはその子にいろいろと助けてもらったのですが、それでもとても心細かったです。時間がたつにつれてだんだんドイツ語に自信を持てるようになってきたので、心細さは少しずつなくなっていきました。自信がついて心細さを少しも感じなくなったのは半年がたって旅行をするときでした。最初のころ、ドイツでわざわざ勉強をする意味が見いだせなくなって、現地の日本人の先生に相談をしたことがあります。その先生は何も考えないで一年いてみたら、と言いました。その言葉で心が軽くなって、私にしかできない留学を試みようと思えるようになり、前向きに考えられるようになりました。なので、ハーフマラソンに参加したり農業体験に参加したりすることができました。また、半年後くらいにはタンデムパートナーを見つけることもできて、そのおかげで苦手だった会話も少しは良くなったと思います。留学中は本当にたくさんの人に出会うことができ、たくさんお世話になりました。私の留学は本当にいろいろな人に支えられて楽しむことができたんだと思います。最後の方はその思いが強く、特にチューターの子にはお世話になったのでさよならがとてもつらかったです。

5-4. 留学希望者へのアドバイス

最初のころは、相手が何を言っているか分からないので心細くなってしまいかと思います。でも、周りにその気持ちをわかってくれる子は必ずいると思うので、そういう人達に相談するのが一番いいと思います。私の留学先にはたまたま現地の日本人の先生がいたので私はその人に相談しました。その相談をするかどうかも悩みましたが、親身になって相談にのってくれました。どんな人でも、親身になって聞いてくれると思うので、周りの人を大事にして留学を楽しんでほしいと思います。また、日本人がいたとしても、全く関わらないということは語学を上達する上ではいいことだと思いますが、精神的に助けられることがたくさんあるとおもうので、いい距離感を保つことが大事だと思います。仲のいい大学の友達が同じ大学にいましたが、その子とはお互い困ったときに助けあうなど、いい距離感を保てていたと思います。あまり気負わず、一年なんとなくいてみれば、余裕ができてきて留学を楽しむことができるとおもいます。

5-4. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

ドイツに行ってしばらくして、本当にこのままドイツにいてもいいのか感じたことがあった。日本で勉強できドイツに行って勉強している気がしたからである。大学に日本人の先生がいたので、その人に相談して一試してみることに決めた。ただドイツにいただけではだめだと思い、ドイツでしかできないことを探して農業体した。このようなことから、何事も意味を考えて、その場でしかできないことを自分で探してできるようになりドイツに行って成長した部分だと思う。これからは、ドイツ語を少し理解できるようになったので、忘れないドイツ語を活かせる場所を探したいと思う。

お疲れ様でした

国際教育センター海外留学支援室 2014.1作成版